

とうきょう 普及

インフォメーション

令和6年1月

島しょ版

- ◆ 新年を迎えて
- ◆ 「東京ダブルスター」シリーズ3品種の現地実証
- ◆ 新島村における担い手確保の取組 ～まずは直売から！～
- ◆ パッションフルーツの着色改善技術の検討
- ◆ ルスカスにおける遮熱剤塗布の効果
- ◆ 生物の力で賢く害虫防除！ ～天敵活用の勧め～
- ◆ 大島メモ：就農セミナーの取組
- ◆ 神津島メモ：灌水によるアシタバの夏季安定出荷
- ◆ 三宅島メモ：切り葉類のハダニ対策の取組
- ◆ 八丈島メモ：JA女性部加工部会のHACCPへの取組
- ◆ お知らせ



東京都産業労働局

新年を迎えて



東京都島しょ農林水産総合センター
所長 中野 卓

新年明けましておめでとうございます。令和6年の年頭にあたり島しょ地域の皆様にご挨拶申し上げます。

2 昨年夏は異常な暑さと少雨で、栽培管理に大変な苦労があったかと思います。新型コロナウイルス感染症こそ5類に移行しましたが、農業経営を取り巻く環境は非常に速いスピードで変化しています。

当センターでは、今年度から本所に島しょ農業振興担当課長を配置し、体制を強化しました。昨年3月に策定された「東京農業振興プラン」の実現に向けて島の事業所と連携して、皆様の経営の一助となるよう全力で取り組んでまいります。

1 協同農業普及事業の実施に関する方針

東京都の普及事業は国と協同して方針を定めて取り組んでいますが、「東京農業振興プラン」を新たに策定したことに伴い、以下の内容を盛り込むため、方針の一部を改正しました。

- ① 新規就農者への技術力、経営力向上のための個別指導の充実
- ② 農地の貸借等に係る制度、支援策の発信
- ③ 自給的農家への実践力養成セミナー実施
- ④ 技術指導や病虫害診断、経営支援等にデジタル技術を活用
- ⑤ 普及指導員の技術力向上

2 DXによる普及指導の高度化

今年度中に、必要なタイミングでコンテンツを迅速に活用できる仕組みづくり及び機器等の整備を行い、経営や病虫害防除等の営農指導、情

報共有等に活用できるよう準備を進めています。

- ① 巡回指導業務にタブレット端末を導入し、保存資料の活用や現場データの入力等が可能
- ② クラウドサーバーを整備し、資料、データの有効活用
- ③ オンライン講習会や動画配信の充実
- ④ 農業者の経営指導記録をシステム化

3 島しょ地域農業振興プロジェクト

今年度から3か年の新規事業です。持続可能な島しょ農業を実現するため、担い手を確保・育成するための特別プロジェクトを実施するとともに、都・地元自治体など関係機関が連携して農業の協同組織の体制強化を支援します。

①担い手確保特別プロジェクト

今年度は、各島の担い手や協同組織に係る現状把握や他県の優良事例の調査委託を実施し、結果をお知らせするだけでなく、各島の町村等の今後の参考にできる提案を行い、将来の取組につなげていきます。

②各島の農業の協同組織等への支援指導

今年度は、インボイス制度及び電子帳簿保存法の講習会を行いました。

島しょセンター職員が調整役として、地域の農業の協同組織や生産販売部会等の課題解決、組織運営能力の向上のために、専門家等を講師として講習会を開催していきます。

結びに

今年は「辰年」です。活力旺盛となって、大きく成長し、形が整う年だと言われています。

今年も行政、研究機関としっかり連携して普及活動に取り組んで参ります。1年間の天候の安定、皆様のご健勝、関係団体・島しょ地域の益々の発展を祈念して、新年のご挨拶といたします。

大島事業所
普及指導センター
(大島班)

「東京ダブルスター」シリーズ 3品種の現地実証

大島のブバルディア

大島町のブバルディアは、東京都中央卸売市場での取扱量の約50%を占めており、全国有数の産地となっています。また、近年はブバルディア新品種「東京スター」シリーズの出荷も増えつつあります。今回は「東京ダブルスター」3品種（写真1）について、令和4年度の現地実証の取り組みをご紹介します。



写真1 「恋桜」と「スノーピンク」

八重咲ブバルディア「東京ダブルスター」

令和4年5月から八重咲の「東京ダブルスター」シリーズ3品種「スノーピンク」(白から徐々に淡いピンク色に変化する八重咲の花)、「恋桜」(濃いピンク色の八重咲)、「サニーレッド」(オレンジがかった赤色)について、ブバルディア生産者部会の協力のもと、9名の生産施設などで約2万本の苗を導入し現地実証を行いました。

普及指導センターは、苗の搬入時に、苗の状態確認等の立会いを行いました(写真2)。また、現地実証を行う意欲的な生産者を中心に重点的に栽培指導を行うとともに、生産者部会と都農総研、支庁、事業所などで現地検討会を開催し、新品種の生育状況や市場性などの意見交換を重ねてきました。



写真2 到着した苗

令和4年の市場出荷の結果は、3品種の合計出荷本数が約2万4千本、総出荷額が133万円、平均単価は約56円で、単価は前年度の東京都中央卸売市場における大島産ブバルディアの平均単価と同等以上でした。

「東京ダブルスター」シリーズ3品種に対して多くの生産者から、今までの栽培品種に比べ、病害虫の発生などにより栽培が難しいという意見が出されました。一方で現地実証に取り組んだ結果、栽培を続けていく意向を持つ生産者もいました(写真3)。



写真3 意見交換会(令和4年11月)

今後の展開

「東京スター」シリーズに引き続き、「東京ダブルスター」シリーズも種苗会社による苗の販売が始まる見込みです。普及指導センターは引き続き関係機関と協力して、大島のブバルディアの生産振興に向けて支援を進めていきます。

大島事業所
普及指導センター
(新島班)

新島村における 担い手確保の取組

～まずは直売から！～

新島村の農業

新島村では古くから各家庭で自家消費用の農作物を栽培しており、自宅敷地内にある畑を「なえば」と呼んでいます。流通が発達し、生鮮野菜がスーパーで容易に手に入るようになった現在でも、この「なえば」や畑で農作物を栽培する住民は多くいます。

新島村では高齢化に伴い農業規模が縮小しており、農業生産の維持・継続が大きな課題になっています。その一方で、直売をきっかけに自家消費用の農作物の栽培から販売農家へステップアップし、農業に新規参入する新たな動きがあります。

新島村の直売拠点

新島村では、新島村農業協同組合（以下、農協）が、新島村内の農業資材の販売場所であると同時に、村内の農産物の代表的な直売所でもあります（写真2）。

農協の店舗では新島・式根島で生産された農産物などを販売しています。式根島から直売所へ出荷される農産物は、新島と式根島を結ぶ村営連絡船で輸送されますが、この輸送にかかる海上運賃を村が補助していることで、式根島産の農産物の出荷が増えています。また同時に、これまで販売を行っていなかった担い手が農協の直売所で販売を行う事例が増えてきています。



写真1 農協の店舗

直売所の魅力アップを目指して

普及指導センターでは、直売をきっかけに農業へ新規参入した担い手の定着支援の一環として、栽培の難易度、島内での需要をもとに、有望な品目を判断し、新たに直売を始めた担い手も対象に含め、広く普及に取り組みました。現在では、トマトやタマネギなど、農協の直売所で長期間にわたり販売されている品目も見られます。

また、普及指導センターの提案により、直売所の経営力強化を目的としてチャレンジ農業支援センターの支援を受けました。その結果、店内の雰囲気も明るくなり、若い世代の来客も増えて店内も活気づきました。



写真2 直売所での販売の様子

今後の課題

新島村では直売をきっかけに販売農家へステップアップする担い手も現われましたが、高齢等による担い手の減少は続いており、大きな課題になっています。普及指導センターは、関係機関と連携しながら、新島村の農業の担い手の確保・育成に取り組みます。

また、ECサイトの活用など島外に向けた販売に対する支援を行うなど、儲かる新島農業を目指し農業振興を図っていきます。

三宅事業所
普及指導センターパッションフルーツの
着色改善技術の検討

三宅村では、近年、施設栽培パッションフルーツにおいて、梅雨明け以降の高温による着色不良の多発が問題となっています。そこで、遮光・遮熱効果のある被覆資材を用いて、施設内の昇温を抑制し、着色改善効果を検討しました。

調査方法

パッションフルーツを栽培している隣接のパイプハウス2棟を用いて、令和4年7月1日に遮光・遮熱資材（商品名：「クールホワイト420SW」、遮光率25～30%）を外張りで被覆し（資材区）、対照区は無被覆としました。

施設内の気温は、6月28日から8月18日にかけて、収穫果実の果皮色は7月7日から8月18日にかけて7日おきに測定しました。また果皮色は、写真1の評価基準に従い着色程度0から2を着色不良果と判断しました。なお、当年の梅雨明けは、7月23日でした。

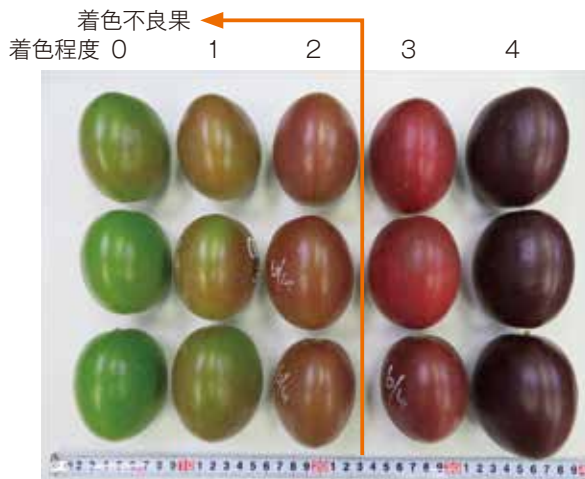


写真1 果皮色の評価基準

調査結果

(1) 気温の抑制効果

資材区および対照区の気温の変化を図1に示しました。資材区は対照区と比べて最高気温で約2.5℃、平均気温で約0.5℃低く推移しました。最低気温は、区間に差が認められませんでした（図1）。

(2) 果皮の着色促進効果

各区の着色不良果の割合の推移を図2に示しました。8月4日を除き、資材区では慣行区に比べ着色不良果の発生割合が減少しました。本結果を生産部会で報告したところ、着色不良が問題となっている生産者から導入を検討する声があがりました。

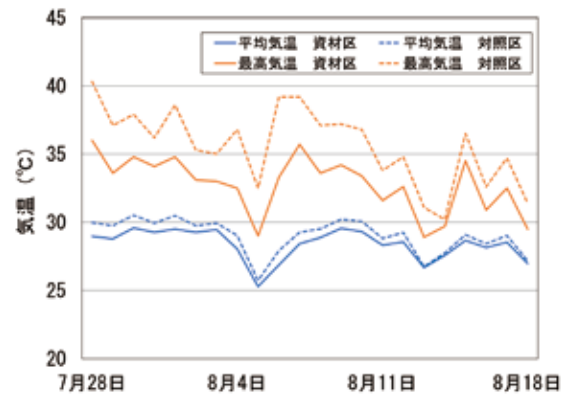


図1 被覆資材の有無によるハウス内温度の推移

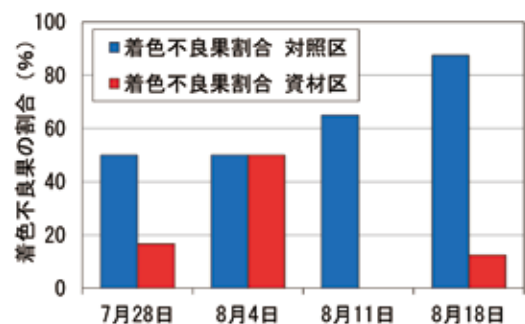


図2 被覆資材の有無が果皮色に及ぼす影響

まとめ

遮光・遮熱資材を外張り被覆することで施設内の最高気温と平均気温が低下し、着色不良果の発生割合の低下がみられました。このことから、梅雨明け後の施設栽培のパッションフルーツへの当資材による被覆は、着色の改善に効果があると考えられました。A品率が上がり収益の向上につながる技術であるため、普及センターではこの技術の導入を支援していきます。

八丈事業所
普及指導センター

ルスカスにおける 遮熱剤塗布の効果

近年、八丈島では新規就農者を中心に新たにルスカスの栽培に取り組む生産者が多く、出荷量も増加しています。一方で、夏場の高温条件下で多発するこうじかび病が大きな問題となっており、収穫時の切り口などから感染が拡大するため、夏場の出荷量確保が課題となっています。

そこで、普及センターでは施設上部に塗布する遮熱剤（商品名：「レディヒート」）を使用し、施設内温度の昇温抑制やこうじかび病の発生軽減などの効果を検証しました。

栽培の概要

令和4年6月に2連棟ストロングハウス(440㎡)の上部に7倍希釈した遮熱剤「レディヒート」を塗布しました（以下、レディヒート区）（写真1）。遮熱剤を塗布していない同規模ハウスを慣行区とし、両区の施設内温度や遮光率、こうじかび病の発生程度を調査しました。なお、施設上部には青色防風網が設置してあり、両区とも調査期間中は施設内に内張り遮光カーテンを展開しています。



写真1 施設上部での遮熱剤塗布の様子

施設内の昇温抑制及び遮光効果

レディヒート塗布による施設内の昇温抑制効果は見られませんでした。一方、日射量は塗布直後のレディヒート区で慣行区より9,000Lx小さく、遮光効果が認められました。時間とともに慣行区との差は縮まるものの、10月上旬まで2,000Lx以上を維持しました（図1）。

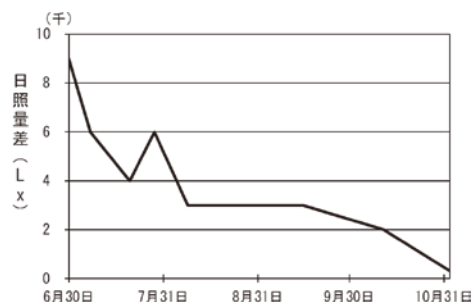


図1 レディヒート区と慣行区との日射量差

こうじかび病の軽減効果

両区とも7月12日からこうじかび病の発生が確認され、その後、気温の上昇とともに増加しました。最多発病葉率は慣行区で45.3%（8月17日）、レディヒート区で13.5%（8月17日）となり、レディヒート区でのこうじかび病軽減効果が認められました（図2）。

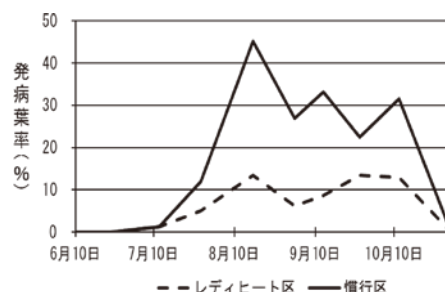


図2 こうじかび病発病率の推移

今後の展望

レディヒートを使用することで、こうじかび病の発病が軽減され、出荷量の向上が期待できます。また、新芽発生のために光が必要となる秋季以降は、遮光効果が消失するため八丈島のルスカス栽培において有効です。

一方、資材コストが10a当たり約6万円かかり、毎年塗布する必要があるなど、コストと作業労力面で課題が残ります。そのため、今後は他の高温対策技術や、高い効果が期待できるダクト送風技術についても検討していく必要があります。

農業振興事務所
振興課
技術総合調整担当

生物の力で賢く害虫防除！

～天敵活用の勧め～

東京の島しょ部は温暖なため、一年を通じて発生する害虫が多く、時には大発生することもあります。そんな中、農薬は農作物を守るため、大変便利な薬剤として使用されていますが、頼りすぎると農薬が効きにくい害虫が増えるなど、余計に被害が拡大することがあります。また農薬使用量の少ない農産物を求める消費者も多いです。何よりも、農薬の過度な使用は、生産者自身の経営と健康まで脅かしてしまいます。

化学合成農薬の使用を抑えながら虫害を減らすため、頼りになるのが「天敵」です。

農薬として販売される天敵

「天敵」とは、害虫を食べる動物（昆虫等）のことです。近年は、天敵を使いやすくした「天敵製剤」が広く販売されています。代表的なものとして、ハダニ類（害虫）の天敵であるカブリダニを製剤化した「天敵ダニ剤」があり、果樹やイチゴの施設栽培等で使用されています（写真1）。天敵製剤は生態系や環境に影響しないよう、使用できる環境（最低気温等）に制限があります。また生きた動物なので温湿度等に影響されやすく、長時間の移動や保存は難しいです。導入前に、登録内容や注意事項を必ず確認し、島への輸送手段等について検討しておきましょう。



写真1 天敵ダニ製剤の使用例

土着天敵の活用

天敵は自然の中にもたくさんおり、伊豆諸島でもクモや寄生蜂等、様々な種類が見られます（写真2）。土着天敵は、農薬取締法上で「特定農薬（＝特定防除資材）」に位置付けられています。天敵の力を農業に活かすため、日頃から天敵に影響が少ない農薬を優先して使いましょう。

近年は、土着天敵をより積極的に活用するた



写真2 マイマイガの体内から出てきたコマユバチ類の繭（左）、アブラムシの天敵テントウムシ類（右）
撮影地：八丈島

め、農作物の周辺の日敵密度を高める技術が、実用化されています。

①天敵の住みかを作る：天敵を引き寄せ定着させる目的で栽培する植物を「天敵温存植物（インセクトリープランツ）」と呼びます。

果樹の下草もすべて刈らず株元に残しておく、そこにカブリダニ等の天敵が住み着き、害虫防除に役立ちます。ただし、下草が繁茂するとかえって病害虫の発生源になることもあるので計画的な刈り取り等、適切な管理が必要です。

②光の力で天敵を呼び集める：ヒメハナカメムシ類はアザミウマ類等の天敵です。農作物の近くに設置したLEDから紫色の光を照射することで、ヒメハナカメムシ類の密度を高めることができます（図）。①の天敵温存植物との組み合わせで、より高い効果を発揮します。



図 紫色LEDの照射（イメージ）

天敵を活かした賢い害虫防除

天敵の利用は、環境や人畜への影響が少なく、抵抗性も付きにくい害虫防除技術です。しかし天敵だけで虫害を完全に無くすことはできません。天敵の利用と防虫ネットの設置、天敵に影響が少ない農薬の使用等、様々な技術を上手に組み合わせ、効果的に害虫を防除しましょう。

大島メモ

就農セミナーの取組

普及指導センターでは、担い手の確保・育成の取組として、農業を始めたい方や既に農業を始めたが技術向上を目指したい方を対象に就農セミナーを開催しています。就農セミナーは、座学や篤農家の圃場の視察など、年間8回程度行っています。座学では、土壌肥料や病害虫等、圃場視察では、ブバルディア、アシタバ、サヤエンドウ等の大島で栽培される品目について、収穫等の実習を含めて実施しています。参加者の中には、講座を通じて新たな品目に興味を持ち、作付に向けて準備を始めた農業者もいます。普及指導センターは、引き続き大島の担い手の確保・育成に向けて取り組んでいきます。



実習の様子

神津島メモ

灌水によるアシタバの 夏季安定出荷

神津島村では、夏季の高温乾燥がアシタバの出荷量低下の大きな要因となっています。そこで、普及センターは灌水方法などについて積極的に指導を行いました。その結果、生産力の低下する夏季についてもこれまで以上に収穫量を確保でき、島内流通だけでなく、島外市場への出荷を定期的に行うことが可能となりました。

普及指導センターでは、今後もアシタバの安定出荷に向けた取組を生産者や農協など地域と連携しながら導入し、産地の発展に向けた活動を行っていきます。



積極的に灌水を行う圃場の様子

三宅島メモ

切り葉類のハダニ類対策の 取組

三宅島では、キキョウランやコルディリーネのハダニ類による被害が問題となっています。

そこで普及指導センターでは、ハダニ類の発生状況を調査するとともに、農林総合研究センターの協力のもとハダニ類の薬剤抵抗性試験を実施しました。その結果、ハダニ類の発生消長および薬剤抵抗性に関する詳細な実態が把握でき、効果的な防除指導を実施することで、生息密度を低く抑えることができました。

切り葉類の安定生産のため、今後も病害虫防除指導を行っていきます。



コルディリーネの栽培圃場

八丈島メモ

JA 女性部加工部会の HACCP への取組

JA八丈島女性部加工部会では、八丈フルーツレモンジャムなどの加工品の製造販売を行っており、島の内外から多くの需要があります。加工品の製造過程では、衛生管理に細心の注意を払っています。普及指導センターが開催した、専門の講師によるHACCP講習会は、加工部会員全員が受講しました。その後も普及指導センター立会いのもと、加工場におけるHACCPに沿った衛生管理の確認、注意喚起を行ってまいりました。普及指導センターは、今後も安全安心な加工品の製造販売に向けた加工部会の活動支援を行っていきます。



HACCP講習会を受講する加工部会員

お知らせ

◎第72回関東東海花の展覧会

日時：令和6年1月26日（金）～28日（日）

会場：池袋サンシャインシティ文化会館2階展示ホール（豊島区東池袋3-1-4）

●表紙写真：大島のブバルディア

◆お問い合わせは下記まで・・・

島しょ農林水産総合センター振興企画室

☎03-3454-1953

島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター

☎04992-2-1123

島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター新島分室

☎04992-5-0281

島しょ農林水産総合センター三宅事業所普及指導センター

☎04994-6-1414

島しょ農林水産総合センター八丈事業所普及指導センター

☎04996-2-3158

農業振興事務所振興課技術総合調整担当

☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション 島しょ版

令和6年1月1日発行

印刷物規格表第1類
登録番号(3)5

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課
立川市錦町3-12-11

☎ 042-548-5053

FAX 042-548-4871

印刷 社会福祉法人 東京コロニー

☎ 042-394-1113



VEGETABLE
OIL INK
古紙配合率80%再生紙を使用しています

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。